

[COMMUNION]

WEB:[http://www.nskk.org/](http://www.nskk.org/tokyo/index.html)

tokyo/index.html

E-mail:comm.tko@nsk.kk.org

PHONE:03-3433-0987

FAX:03-3433-8678

Diocese Office



中高生世代キャンプ特別号

第25号 (通巻1260号)

2015年9月20日

編集: 広報委員会

委員長: 渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18

8月20日から23日までの4日間、群馬県みなかみ町の日本バイブルホームにて、2015年度東京教区中高生世代キャンプが開催されました。中高生世代14名スタッフ7名、引率として太田信三聖職候補生、大和孝明聖職候補生、チャプレンとして中川英樹司祭、以上の総勢24名でのキャンプとなりました。今年のメインテーマである「大事なもののつて、なんすかね…」という問いの答えを求め、様々なプログラムで交わりの時を持ちました。一つのテーマを中心に話して話す「わがちあひ」「みことば」自然を感じる「キャンプファイヤー」そして、4日間の集大成である「聖餐式」など様々なプログラムが行われました。

このキャンプにおいて、初めはテーマに対する答えを見つけて出そうとしていたキャンパー達も、必ず答えは出さなくてもいい。大事なものはこれからの人生の中で、探し続けていく。その事こそが、大事なことなのだ、という事に気付いた4日間だったのではないだろうか。



テーマ

「大事なもののつて、なんすかね…」

私たちはたくさんのものに囲まれ、たくさんの人と関わりながら生活しています。しかし、めまぐるしく過ぎていく日々の中で自分のことしか見えなくなってしまうことも少なくないと思います。普段の生活の中では見えにくいものの、自分や家族、友達にとって大事なものはなんなのか立ち止まって考えてみたい。中高生世代にとってこのキャンプが、大事なものについて考えたり、大事なものに気づいたりするきっかけとなつて欲しい。そんな思いからこのテーマを設定しました。

自分が大事にしているものや、大事だと思ふもの、大事にしたいけれど大事にできていないものなど、主にわがちあひの時間を通してたくさんの話をしました。自分自身を見つめ直したり、他の参加者の話に耳を傾け自分とは違った考え方に触れたり、それぞれが大事なもののことを一生懸命考えられた4日間でした。

1日目の前半は「バスレク」「アイスブレイキング」など、レクリエーションが主でした。後半になるにつれて初参加のキャンパーにも穏やかな表情が伺えました。

「アイスブレイキング」を行った後は「箸作り」を行いました。自ら手作りをして道具の大切さが身に染みる経験になったのではないのでしょうか。

夕の祈りを行った後、夕飯では無理せず残さず食べるというルールを設け大切にご飯をいただきました。

1日目のメインである夜のプログラム「みことば」の時間ではマタイによる福音書第19章16節〜22節「金持ちの青年」を6人ずつのグループに分かれてわかちあいました。青年が何に対して悲しんだのかなど、各々考えている事が違っていたことが印象的でした。

就寝前の祈りを行い、日記を書き一日目を終了しました。

2日目は朝の祈りの後、朝食を摂ってから午前中のプログラム「わかちあい①」を行ないました。このプログラムは東京教



区青年会で行われた自分探しワークをアレンジしたもので、大事なものを考えるにあたり、そもそも自分ってなんだろう？という疑問を皆で一緒に考えました。

昼食を挟んで、午後は「大運動会！」の予定でしたが、雨が降ってしまったため「室内レクリエーション」になりました。1日目よりも打ち解けていたためか、ゲームはかなりヒートアップ。目隠し鬼ごっこやピンポン玉リレーなど、盛り上がりを見せました。

入浴と長めの休憩、夕食を済ませた後は「お楽しみ①」プログラム、きもだめしです。青年スタッフ1人が行方不明になったのをペアで探しに行く、という少しリアルな設定かつ、バイブルホームが学校を改装した建物ということもあり、かなり怖かったようです。

3日目最初のプログラムは「わかちあい②」でした。ショートムービーを見た後、感じたこと気になったことを出し合いました。ムービーの内容を自分自身に当てはめて考えてみたりする中で、普段とは違う視点から物事を考えることができました。

昼食の後は「聖餐式準備」です。始めにチャプレンから聖餐式とは何なのかお話を聞いてから、4日目の「聖餐式」に向けて、全員がそれぞれに役割を担い、準備をしました。

3日目最後のプログラムは「キャン

プファイアー・花火」でした。花火をした後は、一人一人キャンプを振り返る静かな時間を持ち、最後は手を繋ぎ3日間の感想を聴き合いました。

最終日、最初のプログラムは「大掃除」でした。協力して掃除を行い、施設への感謝の気持ちを表すことが出来ました。

続いて、それぞれが役割を担って準備した聖餐式を皆で捧げました。ろうそく、十字架、陪餐に用いたパンと葡萄酒はオルタールの手作りでした。奏楽が皆の聖歌の歌声を引き立て、サーバーの奉仕で聖餐式の雰囲気を引き締めました。代祷は担当のキャンパー達で考えた祈りを皆で捧げました。一人ひとりの賜物によって作り上げられたheartfullな聖餐式でした。



聖餐式の後は「メモリアルブック」でした。お互いのここが大事、と思うところやメッセージを書き、4日間を振り返りながら思い出を形に残しました。

帰りのバスは絶えずキャンパー達の歌声、笑い声で溢れていました。

キャンプリーダー

下条 あすか



わたしがこのキャンプを通して見つけた「大事なものは、それぞれの人の個性を尊重し合うこと」

です。最初は緊張しているようにみえた参加者たちも、さまざまなプログラムや食事、祈りの時を共にする中でだんだんと自然に笑顔が見え、それぞれの個性が表れてきました。ひとりひとり全然違う、そんな自分をさらけ出しても受け止めてもらえ、そこに安心して居ることが出来たことがなによりも大きな恵みだったと感じます。

皆との交わりのなかで「大事なもので、なんすかね…」を考えた4日間。答えは出なくても、このキャンプがこの先「大事なもの」を考える時の手助けになったら嬉しいです。

このキャンプを支えて下さったすべての方、このメンバーがキャンプに参加するきっかけとなったすべての出来事に感謝しています。来年はもっとたくさんの中高生世代に新しい出会いがおとずれますように。



高3 池田 孟琳
僕は、今回
この中高生世代
キャンプに行く
にあたり、行く

前はあまり乗り気ではありませんでした。もともと、キャンプの事を詳しく知ったのは親からですし、僕自身そこまで興味が無かったからです。しかも、学校等の見知った仲の人たちと生活するのではなく、全くの初対面の人たちと一緒に生活していくという事もあり、当日の朝までは緊張と不安が混じった状態でした。しかし、実際に行ってみるとすぐにスタッフが話しかけてきてくれて、話しやすい環境をつくってくれたため、他のキャンパーとも徐々に話していけるようになりました。

2日目、3日目におこなった、自分たちの大事なものについて考える「わがちあい」を通じて、その人達の個人としての考え方などを知れたり、普段はあまり口に出さないような事を気づかずに逆に自分が言っていたりして振り返ってみればとても充実した、意味のあるキャンプだったな、と感じました。

今年でキャンパーとして参加するのは最初で最後ですが、次回はスタッフ側となってキャンパーの人と一緒に色々な事を考えて、わがちあいしたいと思います。



中3 穂積 香菜
今回の中高生
世代キャンプは、
私にとって3回目
の参加となりました

た。このキャンプは、自分自身では気付けなかった多くの成長が発見出来る、数少ない貴重な機会となっています。

その中で自分が最も成長出来たと思う点は、人見知りが克服出来た点です。私は以前から人見知りで、中1で初めてのこのキャンプに参加したときも、あまりみんなと話せませんでした。中2になり、今年はみんなと仲良くなろう！と思いついてからキャンプに参加しました。結果、去年よりも話せたような気がして嬉しかったです。

中3になり、人見知りを克服して、自分から誰にでも話しかけられるようになる、という目標のもと、このキャンプに参加しました。去年少し話せた事により、話すことへの抵抗がなくなり、わがちあいでもたくさん発言出来るようになりました。自分の中で、目標を達成出来て、とても嬉しいです。

だから私は自分自身を変えてもらったこのキャンプにとっても感謝しています。そしてまた来年も、もつともつと成長させてもらえる事を期待して、このキャンプに参加しようと思います。



中3 本多 悠輝
今回私は中高生
世代キャンプに初
めて参加しまし
た。バスに乗る

まではずっと緊張していて、他の人とあまりうまく話すことができませんでした。しかしバスレクをやったり、いろいろなプログラムをやっていく中で、キャンプに来るまで知らなかった人たちと仲良くなつてよく話すことが出来るようになりました。私はこれまでマーガレット教会の日曜学校のキャンプによく行っていたため、キャンプってこんな感じだろうな、という想像がありました。今回のキャンプはその想像を超えるようなとても楽しいキャンプでした。キャンプでは「みことば」の時間で聖書研究という初めての体験をさせてもらいました。初めての聖書研究では聖書についてとても深く話すことができた。そのあとにもいろいろなテーマでも深い話をする体験をしました。私は今までこういうことをしてこなかったのですが、最初は発言をすることができませんでした。しかし何回かやっていくなかで、よく発言をすることが出来るようになりました。今回のキャンプに参加して、また中高生世代キャンプをしてみたいなと思います。



高3 水谷 桜
中高生世代
キャンプに参加
させていただい
たのは今回で2

回目となりました。私は高校1年生の時が初参加でしたが、「高校3年生という節目の年にもう一度このキャンプに行きたい」という想いで参加を申し込みました。2回とも最高に楽しく、とても充実した時間を過ごすことができたので、私はこのキャンプが大好きです。

今回のキャンプを通して、私がこのキャンプに惹かれる理由は主に2つあると気が付きました。1つ目は、初対面の人や年に一度このキャンプでしか会えない仲間と出会うと同時に、自分が知らない自分に出会えることだと思います。貴重なプログラムの時間はもちろん、毎日の食事やみんなで過ごす他愛のない時間の中で、他のキャンパーやスタッフが新しい自分に気づかせてくれます。2つ目は、誰からも否定されず、ありのままの自分を受け入れてくれる場所であるということだと思います。これは今回のキャンプ最終日の聖餐式で聞き、とても納得したお話でした。

最後に、素敵な時間と素敵な出会いを提供してくださった全ての人に感謝したいと思います。

スタッフ感想

大事なものは何か、について考える3泊4日。素敵なキャンパーたち、スタッフ、先生方に囲まれてとても豊かな時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

上野山 夏美

私は今年初めて中高生世代キャンプに参加させて頂きました。大切なモノってなんだろうか。本当に難しいテーマではあったけど、キャンパーそして、スタッフと一緒に考えることが出来たと思います。出会いと、経験に感謝です！

川島 創士

私にとって「大事なものは数多くありますが、その内の一つは紛れもなく、中高生世代キャンプで出会った仲間と、共に過ごした時間です。これからずっと、この場所を遺し続けて欲しいと心から願います。

小林 忠正

大事なものを考えてほしいと思っていたら逆にこちらが大事なものを考えさせられていたように感じる4日間でした。このキャンプで繋がれた全ての人に感謝してもしきれないと思います。

溝井 ひかり

この出会いに感謝。4日間自然の中で共に過ごし、大事なものは何か考えるうちに今年集った24人は大事なものになりました。皆と喜び笑い、感情が動くキャンプはまさに生き物だと実感しました。

宮崎 真理

キャンプの4日間、色々な個性を持ったキャンパー達と過ごす中で、私自身も大事なものが出来ました。ひとつひとつの出会いに感謝します！最高の夏になりました！

村上 淳



司祭 中川 英樹
「帰りたくない。キャンプ全体の豊かな総りを物語っていると思います。スタッフたちはよく頑張りました。キャンパーはほんとうに楽しめました。キャンプ・チャプレンとしての仕事は「ただただ祝福すること」だと考えています。準備の段階から実施に至るまで、いろいろな「欠け」はたくさんあったかもしれませんが、でもそれらを否定の目で見つめるのではなく、祝福の目でみつめていたいと思うのです。すべてが感謝でした。」



聖職候補生 太田 信三

『大事なもののつて、なんすかね。』皆で向き合った3泊4日。わたしがこれから「大事」なもの、ことに思いするとき、このキャンプで出会った皆の顔、感じたことが、自然と浮かんでくるでしょう。この暑い時間、労力を注ぎ込み、スタッフたち、また参加してくれたキャンパー皆に心から感謝します。神の国を垣間見ることができました、本当にありがとう。



聖職候補生 大和 孝明

毎日が驚きの連続でした。キャンパーたちの表情が日々変わり、後半になるほどのびのびと、輝いていくことが印象的でした。スタッフの熱意や、全体を包む、「誰もがそこにいて良い」優しい雰囲気もすごい。疲れましたが、充実した時間でした。キャンプファイアーや手づくりの聖餐式は忘れられません。仲間達との交わりで得たものを、皆さんこれからも大切にしてくださいね。

今年度の参加者

【中高生世代】

池田孟琳（聖愛教会）、小貫真基（聖マールゲレット教会）、金子英志郎（立教学院諸聖徒礼拝堂）、北久保光宣（聖マールゲレット教会）、小嶋元角田七海（聖マールゲレット教会）、永井智子（三光教会）、新妻夏奈（聖マールゲレット教会）、平林瑠子（渋谷聖ミカエル教会）、穂積香菜（三光教会）、本多悠輝（聖マールゲレット教会）、牧野悠剛（聖アンデレ教会）、松原雄貴（カトリック高輪教会）、水谷桜

【青年スタッフ】

キャンプリーダー下条あすか（聖パウロ教会）、上野山夏美、川島創士（東京聖三一教会）、小林忠正（立教学院諸聖徒礼拝堂）、溝井ひかり（大森聖アグネス教会）、宮崎真理（立教学院諸聖徒礼拝堂）、村上淳（久我山キリスト教会）

【引率スタッフ】

太田信三聖職候補生（聖アンデレ教会）、大和孝明聖職候補生

【チャプレン】

中川英樹司祭（立教学院諸聖徒礼拝堂）

感謝

皆様からの温かい応援を励みに、そして神様の御恵みの下で1年間準備をし、無事に夏の中高生世代キャンプを行なうことができました。様々な形でご支援、ご協力頂いた教会、聖職や信徒の方々にスタッフ一同、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度の夏の中高生世代キャンプについて

中高生キャンプ準備会は「青年による中高生キャンプを東京教区の夏の恒例行事にすること」「長く続けられる活動にすること」を目標に活動しております。来年度も夏の中高生世代キャンプを開催するためにスタッフは今年中に準備を開始します。今後のキャンプを益々充実したものにするために、来年度の青年スタッフを募集致します。詳細につきましてはお知らせを各教会へお送りする予定ですので、是非ご覧ください。また、中高生世代への参加募集につきましても後日お知らせする予定です。よろしく願い申し上げます。